

風物詩

霧氷の雲仙

雲仙では、十二月に入ると寒気のしまった日には霧氷の花が咲きます。仁田峠から普賢岳頂上二帯にかけて、水晶宮さながらの白銀の世界に変わります。

今年はやや遅れていますが、阿蘇・雲仙と初雪の便りがあり、いよいよ冬のシーズン到来です。霧氷の期間は十二月から三月末まで。



映画
テレビ

新春のおたのしみ

洋画は、スビルバーク監督の原作を、一千枚以上の劇画と水中運動会（二日）など。子と『E・T・』が話題作。宇宙人と、国風景の実写をモニターシュした友達になる少年のドラマで、家族意欲作。民放では、テレビ朝日系そろって楽しめそう。アクションが有吉佐和子原作・脚色の三時間では、シルベスター・スタローンドラマ『開幕ベルは華やかに』を三日夜に。高峰三枝子、中村敦夫が、一千人の警官隊と闘う『ランボー』が派手な活劇をみせます。らが演劇界の内幕をサスペンスたっぷりにみせます。

おなじみアガサ・クリスティー原
日）、『凱旋門』（九日）、TB

定年退職旅行
第二陣が沖縄へ

さきに第一陣として関東・関西の定年退職者旅行を終えました。第二班の沖縄旅行が行われました。

松の手入れ



間引きの好期、二月頃までに

消毒について

石炭硫黄合剤は殺菌力と殺虫力とを持ち合わせ、冬期の消毒には欠かせないものです。寄生虫のカイガラムシやアブラ虫の卵、樹皮の中で越冬中の害虫などのほか、細菌や胞子にもよく利き

雜木盆栽のせん定

活動を停止している三月頃までが適期。その樹の特長を生かして、下枝を大切にして徒長枝や上部の強い枝などをせん定して樹の形を整え、採光・通風と全体のバランスを考えて切り込みます。実物や花物は、実や花芽と十分確かめながらせん定してください。

いし三回ぐらい散布します。成木の若木に薬害がある場合もあり要注意。また消毒器は、薄い酢を入れた水でよく洗ってください。

注意すること

ウメなど早く花を咲かせようと、長く部室の中に入れておく

生け垣の手入れ

正月を迎えるのに庭の手入れ、これは乾燥し過ぎの場合が多く、ときどき戸外に出して霧吹きしたり、水を十分与えて活氣を与えましょう。

暮らしのヒント

十円玉五つお忘れなく
 一日の始まりに、サイフの中
 割をのぞいてみましょう。百円
 玉や十円玉などの小銭はありま
 うに。

名画もずらり

東宝では たのきんトリオの『ジェミニ・YとS』がウィーンを舞台とした青春活劇。田原俊彦の二役が話題です。併映『三等高校生』もたのきんトリオ・野村義男主演の学園喜劇。

新春テレビの異色番組は、NHKの劇画ドラマ『項羽と劉邦』（一時間半、二日）。司馬遼太郎

③ ④ ⑤

名画もずらり

⑦ ⑧ ⑨

劇画『項羽と劉邦』



写真は、男はつらいよ、花も嵐も寅次郎。

S系の『家族の肖像』（一日）が楽しみ。前二作は亡きイングリット・バーグマン主演の反ナチ運動を折りませた名作、『家族』は巨匠ルキノ・ヴィスコンティ監督作品です。

若者向きには、一日〜三日連続の『YOU』（NHK）がドキュメントあり、コンサートありの特別番組。現代若者のヒーローとして、RCサクセション、アントニオ猪木らが登場するほか、スーパースター・矢沢永吉のコンサート、スタジオ対論（時には家族を考えてみよう）など盛りだくさん。人気の糸井重里が司会します。

などを見物し那覇泊り。十三日はひめゆりの塔、摩文仁丘、沖縄サング園、玉泉洞、東南植物園、万座毛とまわりました。

十四日は海洋博公園、中山パイロン園、グラスポートで美しい沖縄の海を満喫し、ハプショールなどを見て那覇泊り。十五日午前中自由行動のあと、午後那覇空港を飛び立ちました。

このコースの中で、基地の見学など異労評からのガイドも行われ好評でした。

この定年退職旅行に参加したのは三十七人で、「来てよかった」とたいへん好評でした。

期末手当闘争

十二分会(三川)町 佳郎

期末手当の稿読みにつつ妻の不満いきどおりのことばを肯（うべな）わんとすも（編集会議）

交渉の窓口も開かず償(いきどお)り二四ストの指令揭示されたたり二四スト打ちても窓は開(あ)かざりき闘いは難く長びくらしも月初めの支給は難しと揭示板のスト予告日を見つづつ訴す四、五人ひと休みなしいる数(す)人の社外工に寄りゆきてボリーナスのこと話しおり胸内によどめる不満もいい得ずに聞わぬ組織の妥結の揭示(港務所新労ボリーナス妥結期限付回答迫れば提示せり四十三万五千は今だ少し

サンタの弁解

その当時は、オヤツといつてもふかし芋のようなものばかり食べさせられていたので、駄菓子です。日頃はなかなか買つてやれない

四山一主婦

でも、今はそつはいきません。わが家の六歳になる息子は、画用紙いっぱい自分のほしいプラモデルの絵を書き、サンタクロース

ので、たまには喜ばせてやりたいと思うのですが、物価上昇にも追いつかないボナナスの三千円アップでは、日常の赤字補てんが先決

たぶん中学生の頃までだったと記憶していますが、クリスマス・イブの夜は姉妹五人がそれぞれ靴下を枕元に置き、寝たふりをしてお母さんが駄菓子を入れてくれるのを、胸をわくわくさせて待っていたものです。